

## 国語の力をつける勉強方法と長崎地域国際化フォーラムに参加して考えたこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。この放送では、どのようにしたら効果の上がる勉強ができるのかということがメインテーマです。そこで、国語の力をつけるよい方法の一つとして私がお勧めしたいのは、音読です。国語の教科書に限らず、新聞、学校の図書館で貸りてきた本、自分でお買いになった本、家にある本を、気に入ったところだけでよいですから声を出して読む。これが、国語の力をつける第一だと思います。
2. 第二は、書き取りです。例えば小学生でしたら、漢字ドリルを用いて漢字の書き取り練習を正確に行うこと。中学生、高校生であれば、国語、社会などいろいろな科目の教科書の中で、少し難しいと思われる漢字の書き取り練習をすることが大事です。英語はスペリング、つづりの書き取り練習をする。英語も声を出して読む音読練習をして、そのあとで書き取り練習をする。この繰り返しをすると学力が付きまします。社会も理科も同じです。まずは、学校の教科書を声を出して読む音読練習をする。それが終わったら、書き取り練習をする。このようなことが大事です。
3. 第三は、学校の教科書にある計算や問題の練習をすることです。「練習、練習、また練習」をすれば、必ず学力は上がります。以上の三つの練習が一番簡単な学力のつけ方です。  
繰り返しになりますが、国語は音読練習をする。すべての教科の基本は国語ですので、国語の教科書を中心に音読練習をしてください。英語も語学ですから、音読練習が大事です。ほかの科目についても、教科書を音読をすることが一番よい方法です。音楽の教科書、美術の教科書、保健体育の教科書、技術家庭の教科書なども音読をしたほうがよいですね。ぜひ皆さんもやっていただければと思いますのでよろしくお願ひします。
4. また、資格試験に挑戦する方もいらっしゃると思います。例えば、看護師の試験や運転免許証などの試験です。それらの試験にも必ず教科書や問題集があります。ですから、まずは音読練習をして、次に書き取り練習、そして問題練習をする。このように行くと必ず学力が付き、試験にも合格しますのでお勧めします。これが今日の最初のお話です。
5. ここからは二つ目のお話です。私は、先週の2月11日木曜日と12日金曜日の2日間に長崎へ行って来ました。「長崎地域国際化フォーラム」というものが長崎大学経済学部を会場にして行われ、全部で40名ぐらいの方が参加しました。長崎の地域をどのように国際化するかというテーマで議論しました。東京の経済同友会という経済団体には、知日派・親日派拡大委員会というものがあります。それは、日本をもっと知ってもらおう、日本を知る人を増やそう、日本に親しんでもらう人を増やそうというものです。私は、その知日派・親日派拡大委員会の委員の一人として

参加させていただきましたので、そのお話を少しさせていただきます。

6. 一番話題になったのは、JET(ジェット)プログラムについてです。今、小学校、中学校、高校には、ALT(Assistant English Teacher) としてたくさんの外国の先生がいらっしゃっています。その先生方は何年か経ちますと、お国に帰られるわけです。しかし、全員が帰られるのではなく、日本が大好きになって、日本にもっと残りたいという方もたくさんいらっしゃいます。そこで、そのような方々をどのやってお引き留めするのか。そして、日本に親しんでもらい、また、活躍をしてもらうのか。そのようなテーマで議論がありました。

7. この放送をお聞きの栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、福島県の小学校、中学校、高校には、ALTとして英語の授業で活躍なさっている先生がたくさんいらっしゃっています。おそらく大部分の先生方が日本が大好きになって、また、栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、福島県が大好きになって、日本にもうちょっと住んでもいいとか、日本でお仕事をしてもいいと思う方がたくさんいらっしゃるかと思います。そういう方々に英語の先生としての仕事が終わったあとに、どのようにして日本に定着していただくか、また、活躍していただくかというテーマで、非常におもしろいテーマでした。

8. 大事なことは、企業や行政などの受け入れ先だと思います。外国の方がこれからたくさん日本にいらっしゃると、様々な場面で外国の方の活躍が必要になると思います。例えば、病院で診察を受けたり入院をなさったりすることがあるかもしれません。そのようなときには、外国の事務員さんや様々な資格を持った方が必要になります。ですから、ALTの先生方に活躍していただくと有難いなあと思いました。

9. 長崎県に、五島列島という素晴らしい島がたくさんあります。その五島市の市長さんもいらっしゃってお話をお聞きしましたので、最後にご紹介させていただきます。

五島市はプロジェクトGという事業をなさっていて、非常に一所懸命に英語教育をなさっているということです。小学校、中学校、高校の全部を合わせて100人ぐらいの小さな学校ですが、その学校は同じ敷地に小学校と中学校と高校があります。その3つの学校が一体となって、小学校の3年生から中学3年生、そして高校3年生まで一貫したカリキュラムで英語の教育をなさっているということです。中学2年生の方が少人数で非常に熱心に教わっているようで、長崎県で英語の発表会があり、1位になったということをお聞きしました。そのプレゼンテーションも聞かせていただきましたが、ものすごくうまい英語を話していて感激しました。学校の大きさは教育内容とは全く関係ないですね。かえって小さい方が、小さな学校の方が、きめ細かな教育が受けられて素晴らしいと私は思います。

以前、栃木県の湯西川中学校に出張授業に行かせていただきました。中学1年生2名、中学2年生4名、中学3年生2名、全部で8名の全校生徒さんでした。生徒さんたちは非常にきめ細かな教育を受けていて、素晴らしい成果を上げていました。小規模校でこそ、素晴らしい教育ができるというようなことも実感しましたので、ご紹介させていただきました。